

平成二十年度総会報告



第3号

神奈川県立港北  
高等学校  
同窓会会報  
平成21年1月1日  
発行

九月六日に視聴覚室にて平成二十年度総会を開催しました。今年度は二期生約六〇名、十五期生約十五名の参加をいただきました。また、渡辺校長にもご出席いただき、四十周年記念行事への同窓会から

の寄付に対する御礼の意味もこめてご挨拶いただきました。挨拶の中では、現在の学校の様子、四年生大学への進学率が毎年十パーセントずつ上がり、港北高校の入試倍率が上がっている事、そして吹奏楽部の部員が百三十人近くいる事などの紹介があり、出席された皆さんの驚きの声が聴覚室に響きました。その後、

会長欠席のため、松本副会長に話をしてもらいました。予算決算案など議題も、承認されました。併せて四十周年記念行事次第も発表されました。学校からは、耐震の関係で校舎の一部を建て替えることになり、完成は八年後で、それまで陸上部のトラックの中にフレハブを建てて順次校舎を立てていく予定であることの報告がありました。総会後には、二期・十五期共に同期会を行ったそうです。二期生は一四五名、十五期生は八二名程度の参加者があつ

たっています。



(三村 一郎)

《思港祭に参加致しました》

昨年は、初秋の九月二十一日(土)二十一日(日)に開催された思港祭に、初めて港北高校同窓会として参加いたしました。同窓会の存在をPRするのが目的で、一昨年の総会前から話が持ち上がったいたものを実現する事が出来ました。卒業した学校の学園祭には、子供が同じ学校に入らない限りなかなか行く機会が無いのですが、「同窓会の出展を手伝う」という目的があった事で、再び学園祭の盛り上げの輪に入ることが出来ました。

平成20(2008)年度神奈川県立港北高等学校同窓会予算

(収入の部)		
繰越金	平成19(2007)年度より	969,216円
会費	37期生(198名)	198,000円
合計		1,167,216円
(支出の部)		
消耗品費	文房具、封筒等	10,000円
通信費	総会案内、会報配布等	70,000円
印刷代	会報印刷	50,000円
事業費	ホームページ開設準備費	84,000円
積立金	港北高校周年事業寄付積立	50,000円
予備費		903,216円
合計		1,167,216円

平成19(2007)年度港北高校同窓会会計報告

	予算額	決算額	差し引き	
(収入の部)				
繰越金	平成18(2006)年度より	1,392,046	1,392,046	0
会費	36期生(236名)	236,000	236,000	0
雑収入	利子	0	2,536	2,536
合計	1,628,046	1,630,582	2,536	
(支出の部)				
消耗品費	文房具等	3,500	6,363	△2,863
通信費	総会案内、会報配布等	70,000	59,470	10,530
印刷代	会報印刷	35,000	44,100	△9,100
寄付金	四十周年記念事業寄付	500,000	500,000	0
積立金	港北高校周年事業寄付積立	50,000	50,000	0
予備費		885,546	1,433	884,113
合計	1,544,046	661,366	882,680	
収入総額		1,630,582		
支出総額		661,366		
残額		969,216		



体育館では、吹奏楽部の演奏や一・三年生のクラスによる演劇が行われていました。視聴覚室では、軽音楽部がバンド演奏していたのですが、ライブハウ

校長あいさつ

県立港北高等学校校長

渡邊 努

ス状態で生徒たちで溢れかえって  
いて、おじさんが入る余地が  
ありませんでした。最近、ク  
ラス皆でTシャツを作るのが当  
たりの様で、「クラスTシャ  
ツコンテスト」の投票もしてい  
ました。

同窓会では歴代の卒業アルバム  
の展示を行いました。来場者  
は多くはありませんでしたが、  
在校生を子供に持つPTAの方  
が四十周年記念の饅頭とマド  
レーヌの売込にあわせて見に来て

頂き、在学時代の話に花を咲か  
せていました。今後も、同窓会  
として思慕祭に参加していき  
たいと思います。

(松本 剛)



同窓生の皆さん、いかがお過  
しでしょうか。今回同窓会報  
を発行されるに当り、母校の校  
長として皆さんにご挨拶できる  
ことを誠に嬉しく思います。

県立港北高等学校は今年記念  
すべき創立四十周年を迎え、十  
一月二十日に川崎市教育文化会  
館にて記念式典を執り行いまし  
た。同窓会からも松本副会長と  
んが主催団体の代表としてご接  
拶を述べられ、三村事務局長と

んら多くの方が式典にご出席  
いただきました。また四十周年  
記念行事の費用として五十万円  
を拠出いただきましたこと、誠  
にありがとうございます。

おかげさまで記念式典も立派に  
行われ、港北高校の生徒諸君が  
元気な発表を沢山してくれまし  
た。ご来賓の方々からは意欲態  
度ともに立派な生徒が多く、ハ  
シルヤコーラスの演奏、翼をく  
ださいなどの全員合唱など発表  
内容の水準も高くすばらしいか

たと絶賛の言葉を頂戴し、私  
も嬉しく思いました。

式典第一部では七期生の藤巻  
幸夫さんが同窓生を代表する形  
で記念講演をしてください、ス  
ケールの大きい励ましのお話は  
生徒諸君に大きな感銘を与えて  
くれました。



三千名を大きく超えて、非常  
に多くの方が社会の第一線  
で活躍されています。本校の  
校歌にありますように既に大  
樹となりそびえていると言っ  
てもいいでしょう。それと共  
に自己の原点はどこにあるの  
か、今の自分を育み支えてく  
れたのはどの師でどの友だつ  
たかを確認することも大切で  
す。今後同窓会活動が一層活  
発となり、絆を更に強め、本  
校創立五十周年に向けて結束  
を強めていただくことを期待  
しています。

《創立四十周年記念式典》

寒い日だったのですが、二次会  
の祝賀パーティーの案内役とし  
ても、あの薄っぺらのヤツケを  
羽織っただけの姿で新横浜の街  
角に立っていましたから。

更に同日の夕刻、新横浜の  
ソシア21で開催されました  
祝賀会では、更に多くの同窓  
生、旧職員、関係者が出席し  
てくださり、和やかな歓談で  
大いに盛り上がりました。そ  
の場でも同窓会の活動を今後  
一層活発にしたい、各期のつ  
ながりも一層強化していきだ  
いとお話が恩師の先生方も  
交えて交わされたとお聞きし  
て、頼もしく思ったことなど  
です。本校の卒業生総数は一万

晩秋の十一月二十日(木)に  
神奈川県立港北高等学校創立四  
十周年記念式典が開催されま  
した。式典は、午後からだっ  
たのですが、午前中から在校生の  
大勢のお母様方が、駅からの道順  
に普段で着るのはちよつと恥ず  
かしい蛍光ピンクで目立つヤツ  
ケを着て案内役として立って  
いました。思慕祭でも感じまし  
たが、本当に港北高校を支えて  
いるのは、このPTAのお母様方  
だと思いました。当日はかな

音楽Ⅲの選択者→演奏披露



大豆戸地域のケアプラザでの活動や、子育て支援施設でのボランティア活動、隣の太尾小学校生徒と一緒に鶴見川の生き物観察や実験を行う地域に根差した活動をしているとの発表がありました。古くなった校舎も新しくなる様ですが、今後、五十年、六十周年と繋がって行く港北高校の未来が楽しみになる生徒たちの発表でした。

（松本 剛）

### 同期会だより

#### 一期生同期会後記

一期生 三年一組  
幹事 真田 正博

一九七三年（昭和四十八年）

三月に卒業、以来五年の歳月のたった昨年九月六日に港北高校一期生の同期会を新横浜フジビュウホテルにて行いました。

この日は港北高校の視聴覚室で同窓会総会が開催されたので、同窓会に参加して、その後新横浜へ移動するコースと、直接ホテルに集まるコースの二本立てとしました。生徒が百二十八名、先生方が十七名、総計百四十五

名の参加をいただき、大変盛大な催しとなりました。



同期生全部を集めるのは卒業以来行った事が無いイベントなので、各クラスのクラス会幹事が集まり二月に二期生幹事会を立ち上げました。この立ち上げに一番積極的に動いた女性を幹事長とし、クラス会を開催したことの無いクラスからも伝を頼りに人選して幹事会に参加いただきました。月に一度の幹事会とメール、電話連絡で準備を進めました。なかなか意思疎通がうまく行かず衝突しそうになったこともありました。メールは便利ですが、思いを伝え合つには顔を突き合わせて議論する事が大切なのですね。

最初迷ったのが会場設定です。何人集まるかで会場が大きさが変わるので判断が難しい。めたのですが、最大でも百五十名位の想定で準備する事にしました。結果は百四十五名の参加で思いのほか多かったのですが、参加の申し込みをしながら、連絡無しに欠席した人が十人以上もいたのには残念でした。後進の方は見習わない様にしましょう。

#### 第十五期同期会報告

伊藤 隆治

ので次は三年先になりますが、次回も楽しい同期会を開けるよう、われら万年幹事、健康管理よろしく〜！

去る二〇〇八年九月六日、卒業から二十二年半を経て、初の同期会を開催しました。

実はこれより一年前の同窓会総会に出席した際に「一万人超の同窓生をどうやってらまとめたいけるのか」という話が出たのですが、私は「まずはここに

いるひとりのひとりがそれぞれの代の横の繋がり、を固めていくことが第一歩なのでは？」と意見を述べました。まずは身近なところで学年ごとに横系を通し、その先の段階として学年間に縦糸を通すようなイメージで行けば、いつか全卒業生規模の集まりが実現できるのではないかと、

という思いからのものでした。言ったからには本当にそれだけ集められるかどうか試してみよう、ということと徐々に声掛けを進め、六月の末ころまでには各クラスの幹事さんの名前が次第に固まってきました。と

は言っても、我が十五期も特段結束力のある学年というわけではありません。クラス会の開催状況も学級ごと「まちまち」で、そつえば十年くらい前にやっただきかなあ、というような状態からのスタートです。

開催通知は基本的に電子メールやWEB、ロジに頼って行いました。特に女子の間の情報網は今なおかなりの強力で、このネットワークにはずいぶん助けられました。

また各クラスの幹事さんの負担を軽減するため幹事さんの役割を「開催の周知徹底」のみに絞り、出欠のとまりまとめは単一のメールアドレスのみで集めることとしました。

そんなこんなで準備を進めたところ、最後の一週間で加速度的に伸び、同窓会総会の当日には当初目標の三倍にも及び総勢九十人近い同期生が集結しました。

まずは「風の部」として同窓会総会への参加を呼びかけ、これには十五人が参加。胸には卒業アルバムからスキャンした顔写真入りの名札を下げ、左手には校章入りのオリジナルのうちわを持っています。



神奈川県立港北高校 第18期同窓会 2008.9.6 新横浜コートヴィレッジ ダイニングにて

## 二十年ぶりの同窓会

十八期 中嶋佳代子

夕方からは「夜の部」と称して新横浜にてパーティーが開かれ、熱気みなぎる濃厚な二時間半を過ごしました。更に二次会は夜の部の参加者がほとんどそのまま参加し、更に仕事を終えて新たに駆けつけてくれたメンバーが加わり最終的にはのべ百人近い参加を得るに至りました。あの一夜の盛り上がり、えもいわれぬ高揚感たるや、それこそ筆舌に尽くれないものがあり、まさに感動の一語「風景」ものでした。

もしも同期会をやりたいくてもなかなか一歩を踏み出せないという他の卒業年次の皆さんがいらっしゃれば、僣越ながらノウハウの提供を通してお手伝いさせて頂ければと考えています。遠慮なく同窓会事務局を通してお問い合わせいただければと存じます。

私達十八期生は昭和の終わり、平成の始まりという節目に港北高校を卒業しちょうど二十年が経ちました。担任の桑山先生の年齢も知らずいた私達。現在どうしていつ

しゃるんだろうという思いから、普段から会っているメンバーでクラス会を計画し十一月十五日に実現できました。一次会は教室で！というわがままな希望に在職の先生よりご理解をいただき実現できたものの集まったのはたったの三名。二次会の食事会でやると十一名というさみしい人数でしたが、始めれば当時の感覚はすぐに戻りまるで教室にいるように懐かしい時間を過ごすことができました。あっという間のクラス会でしたが次回へ続く良い感触で終わりました。クラス会の一歩の苦労は連絡先が不明のクラスメイトとどう連絡をとるかという点です。次回はいじくり時間をかけて、探し続けたいと思っています。また、卒業生

全体としての参加も皆希望していただきましたので、ホームページの作成には大賛成です。参加できるホームページは協力していきたいと思っています。

### 同窓会員の近況

#### 雲田気は大事です

第二十五期生 市瀬 ゆかり  
二十五期生（二〇〇五年度卒業）の市瀬ゆかりと申します。よろしくお願ひ致します。二、三年次にお世話になった担任の小谷先生がお声をかけてくださり、今回寄稿させていただきましたことになりました。近況報告で結構、このことでしたので、大学のことを中心にお話したいと思います。

現在は横浜市立大学の三年生として学生生活を満喫しています。私の大学（ちなみに在校生は「市大（しだい）」もしくは「横浜市（よこいち）」と呼んでいます）は公立大学として、校舎や設備もそれほど最新鋭という感じではありません。人によっては物足りなく感じるでしょう

うが、そういう飾らない（飾れない？）素朴さが港北高校と似通っていて、私は気に入っています。

今の季節ですと、校門を入っですぐ目に入る銀杏並木が見ころで、時々近隣の方々がスケッチしに来るくらいです。そんな美しい景色とは反対に、学生や先生方は地上にばら撒かれた銀杏を避けるのに四苦八苦しています。もしかしたら「市大生は銀杏臭い」と思われているかもしれません。...

三年通つての感想ですが、市大の雲田気は港北高校と通ずるところがあるように思います。港北高校は自由かつのびのびした学校で、高校生ときは私も大いにのびのびさせていたたいおりました。先生方はみなさん強烈な個性をお持ちで、それぞれの授業に先生の性格がよく表れていた記憶があります。市大の校風をことばで表現すると「のんびり」「まじめ」といったところでしょうか。体育会系のようなガッツとした雲田気はなく、各々が各々のやりたいうことを自由に行っているという印象です。今年、ご縁があって来年市大に入学する港北生と

知り合いになったのですが、彼女たちもいい意味で落ち着いているように感じました。それと教授たちは高校の先生方以上に強烈な人が多く、刺激的な授業が多く開講されています。今でも港北と市大を選んで正解だったと思えます。「合う・合わない」は大切ですからね。

大学の宣伝はかりになっしまいました。この辺りで失礼したいと思えます。このような機会を与えていただいてありがとうございます。また機会があればぜひ。

### 同窓会役員募集

ただいま同窓会では役員を募集しています。同窓会の運営に興味のある方、是非ご一報ください。

問い合わせは 事務局長 三村一郎まで  
鶴見区市場下町9-3 電話 090-9834-9041

同窓会ホームページ開設 <http://www.kohokuob.com/>